令和6年12月10日

議会議長 田 口 彰 一 様

総務建設委員会
委員長 野 田 哲 郎

総務建設委員会の管外行政視察について（報告）

令和6年10月17日にご承認いただいた総務建設委員会の管外行政視察を実施いたしましたので、その結果を次のとおり報告いたします。

記

- 1 実施日 令和6年11月18日（月）
- 2 参加者 総務建設委員 8名
議会事務局職員 1名
- 3 視察場所 茨城県境町
埼玉県杉戸町
- 4 視察概要 別紙のとおり

総務建設委員会管外行政視察報告書

茨城県境町（自動運転バスについて）

境町は茨城県の南西部、関東平野のほぼ中央に位置しており、埼玉県、群馬県及び千葉県に隣接し、利根川が東西に流れ、公共施設、商店街、大型店が集中する一方、郊外は緑あふれるのどかな田園風景のある町であった。

人口減少と高齢化の状況下、企業撤退・空き店舗・空き家の増加など、町が衰退していくという危機感や境町特有の課題である鉄道駅が無く公共交通が脆弱な立地環境を考慮し自治体初となる公道での自動運転バスの導入を実施している。

乗車料金を無料とし、町内の交通弱者の自力移動手段として大きな効果を上げており、また、メディア等にも取り上げられ町の知名度向上、寄附金及び観光客の増加など町の行政運営に大きな効果が出ているとのことであった。

公共交通の条件として、定時性・安全性が求められるが、定時性については地域住民の理解が得られ大きな問題とはなっていないとの話があり、また、安全性についても自動運転バス専用保険や救助サポート体制があり安全に運行がなされていた。

実際に試乗体験を行った所感として、時速 20 km という低速であり、主な走行ルートが片側 1 車線の対面通行道路のため後続の自動車が渋滞するなどの状況が見受けられたが、バス走行ルートの周知や人が乗降しなくても必ずバス停で停止し、後続車がいなくなった後に出発する等の対策を行っており、町民の理解もあり安全に運行されている状況であることを実感した。

現在はオペレーター（運転手）が常に乗車し運行しているが、いつでもオペレーターなしで運転できる技術は確立されているとのことであった。

また、今後の取り組みとしては、ルートの増設、夜間運行の開始等利便性の向上に努めていくとの説明があった。

当町においても、境町と同様、高齢化が進んでおり、また、公共交通事業者における深刻な運転手不足や運行経費の増加により、バス路線や地域公共交通網の維持が困難になっている。

現在実証運行中の拠点循環バスを含め地域公共交通のあり方や課題を探る一方、自動運転技術の動向をしっかりと見極め、行政目線だけでなく、町民にとって利用しやすい公共交通施策の参考としたい。

埼玉県杉戸町（まちの駅・道の駅アグリパークゆめすぎとについて）

杉戸町は、首都圏 40km 圏内にありながら、水と緑の自然に恵まれた田園風景があり、400 年以上の歴史がある日光街道の宿場町としての面影が色濃く残っており、伝統的な街並みと自然が共存している町であった。

アグリパークゆめすぎとは第 3 セクターとして杉戸町・農協・商工会等の出資により、地元町民への情報発信基地、防災拠点、体験型農業施設として平成 13 年に開駅をした。

農業を通じた人と人とのふれあいの場として、田植え、稲刈り、野菜の収穫等の農業体験やこども食堂の開催を行っており、イベントの回数・種類を増やすことにより町民、県民だけでなく都心部からもイベント来場者が増えているとの説明があった。

また、イベント運営においても、参加する地元農家の負担にならないよう 2 時間程度の短時間でイベントを完結し、翌日の出荷作業等に影響が出ないように行うなどの工夫も図られていた。

野菜の直売所では季節毎に地元で収穫された様々な野菜が毎日並べられ、開店前には平日で 30 名、休日には 100 名以上の方が並んでおり、夕方には売り切れになってしまうほどの盛況ぶりである旨の説明があった。

食堂も併設されており、地元野菜を使用した定食のほかに、宴会等のコースメニューや仕出し弁当の販売など幅広いニーズに応える施策を実施していた。

「要望があればすぐに実施する。」スピード感が非常に特徴的であり、これまでイベント開催数の増加、農業体験における収穫体験できる野菜の種類増加等数々の要望に対応し、訪れる町民及び観光客の満足度向上、売り上げの増加等の成果につながっているとの説明があった。

課題としては、生産者の確保対策で、毎年 5 名程度の方が農業を廃業され、新たに 2 名程度の方が就農する状況であり、若年層の就農者確保が課題であるとのことであった。

スピード感をもって施策を実施していく取り組みは当町においても参考となる事案であり、今後の事業施策の参考としたい。